



ほうらい

教育目標

- かしこく
- やさしく
- たくましく

一関市立猿沢小学校
令和4年 6月15日
第11号 文責：亀丸

沿岸被災地を訪れました

9日・10日の2日間、6年生は修学旅行に行ってきました。見学地は釜石市、山田町、宮古市、岩泉町でした。今年度は見学地を沿岸被災地に絞り、震災・復興についてより深い学びをしてきました。

1日目は釜石市と宮古市を訪れ、田老に宿泊しました。釜石市では「釜石鶴住居復興スタジアム」の見学をしました。釜石市民が元気を取り戻すために、たくさんの方々が一丸となってラグビーワールドカップ開催を実現したことを学びました。



その後、「鶴住居トモス」で、震災時釜石東中学校の生徒で、小学生の手をひいて津波から避難した川崎杏樹さんから、避難の時の様子や心情についてお話していただき、防災の大切さについて学びました。中学生当時の体験の話ということもあり、子ども達からたくさんの質問が出されました。慰霊碑に献花もしました。



宮古に移動し、震災で工場を失い、一から再建した「丸徳さん」で、ちくわとさつま揚げづくりを体験し、焼き立て・揚げたてをいただきました。思い思いの形のさつま揚げ、わかめと玉ねぎが入っていてとても美味しかったです。



「崎山貝塚縄文の森ミュージアム」では、縄文人の暮らしについて学びました。天気が良かったので、貝塚に行き、土器のかけらや当時捨てられた魚の骨などを拾いました。復元された竪穴式住居も見学しました。

昔のゴミ捨て場である貝塚に興味津々の子ども達でした。

「グリーンピア三陸みやこ」に宿泊しました。楽しい夕食の後は、震災を体験した方々から貴重なお話を聞くことができました。津波で自宅を失っても、職場に寝泊まりしながら町民のために仕事をした役場の職員の方や、津波に頭から飲み込まれながらも助かることができた元消防署員の方のお話を食い入るように聞く子ども達でした。その後は入浴・就寝と仲間と楽しいひと時を過ごしました。



2日目。まずは、龍泉洞を見学しました。神秘の地底湖に魅了された子ども達。鍾乳洞を上にも下にも入るまで探検家になって冒険しているような気持ちになったとのことでした。創造をはるかに超える規模の洞窟に驚くとともに、自然の驚異にただただ驚く子ども達でした。とにかく涼しい洞内でした。反対に外は暑くセミの大合唱でした。



「道の駅・みなとオアシスみやこ」でお土産を買いました。すでに2,000円分のクーポン券をいただいていたので、その分は宿泊したホテルで三陸の名産品を準備してもらっていました。ここでは自分のお小遣い4,000円で自分や家族へのお土産を買いました。みんな4,000円ぴったりになるように頭をひねりながら買い物を楽しみました。昼食はカレーでした。一番食いつきがよかったように感じました。港の散策もしました。



昼食後は山田町の織笠漁港に行きました。天気にも恵まれ、漁船に乗り養殖いかだの見学をしました。カキやホタテ、ほやなどの養殖の様子を見せていただきました。それだけではなく養殖いかだの上にも上がったり、とれたてのほやをいただいたりした子もいました。いかだにウミネコの巣があり、ウミネコの卵やふわふわの雛も見ることができました。陸に上がってからはホタテの殻むき体験・試食と、海の恵みを味わうこともできました。津波の恐ろしさだけではなく、海はそこに生息する動物の命を育んだり、私達に多くの恵みをもたらしたりすることも学習することができました。



保護者の皆様には、旅行の事前準備、お子様の体調管理等たくさんご協力いただきました。コロナ禍にありながらも、このように充実した修学旅行を実施することができ、かつ全員元気に帰校することができましたことに感謝いたします。ありがとうございました。今回の旅行で学んできたことをしっかりとまとめ、5年生や保護者の皆様等に自身の学びを発信することをとても楽しみにしています。